

リスク管理

世の中にITが普及するにつれて、事故の発生頻度、影響が大きくなってきている。利用者には提供されるサービスの使い勝手の良さが強調されるが、その裏側で情報システムの肥大化、複雑化が進んでおり、安定的なITサービスの提供に対して、リスクが高まっている。改めてシステム開発プロジェクトのあり方が問われている。

このような問題に対し、情報システム開発会社側も危機意識を持っており、国内シェアの8割を占める富士通、日立製作所など情報システム大手8社が顧客企業と共同でシステム障害を防ぐための統一基準を9月下旬にも文書にまとめて業界に配布、中小企業の採用も促す動きが出ている。

リスクマネジメント

ABC

システム開発プロジェクト

ソフトウェアを中心としたシステムの開発および
取引のための共通フレーム体系 1998年版
(SLCP-JCF98体系)

【契約の視点】

1.1 取得プロセス

1.2 供給プロセス

【企画の視点】

1.3 企画プロセス

【エンジニアリングの視点】

1.4 開発プロセス

【運用の視点】

1.5 運用
プロセス

【保守の視点】

1.6 保守
プロセス

開発工程

運用管理工程

対話・情報共有が成否のカギ

これは重要な取り組みではあるが、プロジェクト内で共通の言葉が使えるようになったという、コミュニケーションにおけるスタート地点であり、開発・運用現場では更に踏み込んだ取り組みが必要である。

その取り組みの鍵になるのは、プロジェクトメンバー間で真実の情報を共有する力である。メンバー間では情報の偏りや軽視する傾向があつてはならない。プロジェクトを円滑に進めるために必要な情報を適切なタイミングで共有する必要がある。

プロジェクトで、全員が真摯に提供し理解に努める必要がある。

典型的な失敗プロジェクトでは、開発する側から適切な報告が行われず、事態を把握することが出来ず、問題発見・対策が遅れている。また、利用する側もITプロジェクトを技術的、専門的なこととして、情報が提供されないことを問題とせず、自ら確認しようとしていない。

素が大きく関係していると思われる。

実際に良好なコミュニケーションが行われているかは、プロジェクトの進捗会議での「場」の雰囲気に象徴されている。極端な例を挙げれば、下を向いている人が多い会議は、先行きが不安になつてしまう。上手にプロジェクトは誰もが視線を交わしあい、積極的な意見交換が行われ、時には冗談を交えた上で本音が語られている。

プロジェクトにおけるコミュニケーション力の形成には、リーダーの資質が重要である。知識や技術、役職等だけではなく、良い「場」を作ることができるムードメーカーとしての資質も今後益々重要な要素になってきている。